

### 海に携わる人々の現場の声を聞いて、若い力で課題解決に向けた取組を実施

日本一小さい県でそれぞれの距離が近いにも関わらず、漁港や島の抱えるごみ問題が、様々であることが漁港（漁師）の座談会や離島の方との交流でわかった。離島の持つ海ごみ問題はどの島でも共通で起こっているが処理については異なることがあったり、漁師の海ごみや漁に対する考えも様々である。しかし、海が豊かであるためには海ごみ問題は避けて通れない問題であることから、まずは若い世代に対して漁師との交流や体験の場・学びの場を設け、課題解決の糸口を探るイベントを実施した。

### 2022年度 実施状況について

■海ごみゼロウィーク啓発商店街啓発  
県民に対して、海ごみの活動を周知、商店街内にペットボトル回収BOXも設置し、ごみの分別についても意識向上を図る。

■魚を捌いて海ごみを削減しよう  
豊かな海を守るため、海底ごみを取る漁師を応援。魚の魅力を発信し、魚食を推奨。家庭で取り組める海ごみ削減の意識向上を図る。

■離島のごみ問題を若い力で解決  
高齢化が進む離島。島のごみも回収の人手がなく放置されている。この問題はどの離島にもある問題で学生の力で課題解決の糸口を探る。

■スポGOMI 甲子園香川県大会  
高校生の海ごみに関する関わり合いが希薄であることから、スポGOMI 甲子園をきっかけに海ごみ問題への関心を持ってもらう。



・概要：商店街での海ごみゼロ啓発  
・目的：県民に海ごみゼロウィークの情報発信  
・場所：丸亀町商店街  
・連携先：丸亀町商店街振興組合、宮脇書店  
・効果：9/26～10/31の期間、商店街内にペットボトル回収箱を4台設置。期間内に約400個のペットボトルを回収できました。その内80%ほどのペットボトルがキャップ・ラベルの分別をしてくれていました。分別することで、ごみではなく資源になることを理解してくれ、実際に多くの方が行動に移してくれた事を実感しました。



・概要：瀬戸内さばける教室 in かがわ  
・目的：海ごみと魚食の繋がりを知る  
・場所：高松附属小学校・中学校他  
・連携先：高松附属小学校・中学校他  
・効果：さばき・調理する事で魚の魅力を知り、魚食を通じて、海ごみ問題を知るさばける教室を実施した。現役漁師からの海の中が今どうなっているのか？このままだと未来の海はどうなっていくのかを聞き、学校・家庭で取り組めるプラごみ削減についても話し合い、海ごみ問題は、他人事ではなく、自分事であることを理解してもらえた。



・概要：離島清掃活動 @佐柳島  
・目的：学生に離島のごみの現状を体験・発信  
・場所：佐柳島清掃活動  
・連携先：香川大学、高見漁協  
・効果：離島清掃未経験者を集め、離島のごみの現状を知ってもらう活動を実施。陸とは違った離島のもつ海ごみ問題を肌で感じてもらい、島民や島の漁師とも交流し、それぞれが抱える問題を共有した。瀬戸内海の離島全てに起こっている問題なので、継続した活動が必要であることを参加者が認識し、次の活動への行動理由になった。



・概要：スポGOMI 甲子園香川県大会  
・目的：高校生に対する海ごみの現状発信  
・場所：うみまち商店街・高松漁港周辺  
・連携先：高松市、香川県教育委員会  
・効果：初開催なので参加チーム15を目指し、募集した。最終20チームの参加があり、高校生の海ごみの関心があることがわかった。引率の先生や生徒との会話の中で、瀬戸内海の海ごみ問題については、そこまで深くは理解していなかったが、大会を通じて参加者の理解は進んだことを実感できた。

その他：ラジオで繋ぐ、海の声企画・離島ごみ問題についての新聞記事等を調整中

### メディア露出



11/19放送 つるの剛士出演  
「豊かな海と魚たち～ここからはじまる海ごみゼロ～」



5/20「エブリフライデー」



5/27「エブリフライデー」



10/20「RNCnewsevery」

その他：TVCM 80本 2分コーナー 10回 WEB 33本 新聞1紙 掲載

### 2022年度の課題とこれからの展望

清掃活動団体も増え、海ごみ問題の認知は上がってるが、まだ他人事と考えてる人が多く、今後も啓発が必要と考えます。また、海に関わる方との話の中で、漁港・漁師、島民の抱えているごみ問題について様々であることがわかった。今後は、それらの課題に対して漁港に拾い箱を設置したり、ごみが拾いやすい環境を整えると共に、海ごみ問題について情報発信も行う。引き続き、漁港・自治体・自治会・大学とも連携し、それぞれが抱える課題解決に向けた効果的な施策を推進していく。